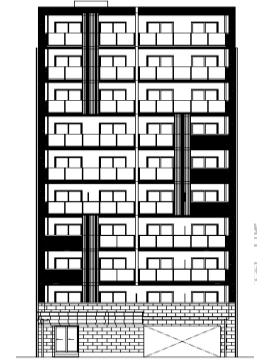


CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境性能評価用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	P-SQUARE Shumoku III 新築工事	階数	地上10F
建設地	愛知県名古屋市東区榑木町3丁目48番、49番、51番の一部	構造	RC造
用途地域	準防火地域、近隣商業地域	平均居住人員	84人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年4月22日
敷地面積	547 m ²	作成者	
建築面積	217 m ²	確認日	2021年4月22日
延床面積	2,075 m ²	確認者	



きは
除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE 0.9</p> <p>★☆☆☆☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 60%: 30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 2.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。 	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Low-Eガラスを使用し外皮性能の向上に努めるとともにシックハウス対策に配慮している。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階高に余裕を持たせ、快適性・対応性に配慮している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの緑地を確保し、周辺環境および地域住民との関係に配慮している。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Low-Eガラスを使用するなど建物外皮の熱不可抑制に配慮している。 ・LED照明を採用している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンフロン発泡材を採用している。 ・F☆☆☆☆建材を採用している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路に面して、積極的に植栽し、街並みの形成、緑化に努めている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

P-SQUARE Shumoku III 新築工事

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.1	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.4
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.0	
2. 自然共生	評価点 = 2.9	
3. 循環型社会	評価点 = 2.4	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。